めだかの学校だより

平成25年11月1日
第82号
学舎：周智郡森町一宮
「一宮総合センター」
事務局：静岡県磐田市
家田529-20
TEL0539-62-6691

校長訓話

第八十二回　校長　横山　浩史

めだかの学校をそーっとのぞいて見たのは今から16年ほど前、第15回開校と記憶しています。10年程勤めた会社を退社し、職人として稼業を継ぐ意思を固め、12年ぶりに藤枝に帰省した頃です。

夕方5時に仕事を終えた後は、自己研鑽と人脈作りの時間と心に決め、町内行事・町内活動はもちろんの事、地域で活動する団体やサークルには積極的に参加し、誘われたら二つ返事で顔を出しました。（飲み会も）子供の頃から夢中だったサッカーも再開、県社会人リーグに復帰しながら、藤枝サッカー協会に携わり、子供たちの指導にも恩返しの気持ちで始めました。

めだかの学校との出会いは、当時所属していた藤枝商工会議所青年部が企画運営していた藤枝未来塾の20名ほどで参加したのがきっかけとなり今となっています。

当時の会場は引佐町の奥山（地名です）で、浜松西ICを降りてから細江町を抜け2時間近くかかりました。学校が終わり別れを惜しんでいれば帰宅は1時を回ることもしばしば、しかし、私よりも遠くから来ていた方もたくさんいました。

仕事を終えた、それも週末、また、決して交通の便が良い所ではなく、家でゆっくりナイターでも見ながら一杯やりたい時間。しかし、真っ暗な山道に車のヘッドライトが光り、次から次へと人が集まってくる。まっすぐ家に帰れない事情でもあるのか？（笑）

そんな疑問は直ぐに解決できました。陶芸家や芸術家・本物の校長先生や各分野の専門家・著名人、設計士や新聞記者、議員さんやコックさん、ガーベラ生産者、ギタリストもいました。一日行けば必ず6人程と仲良くなり、2回行けばまた5，6人と顔見知り、2年程通えばほとんどの方に声を掛けることができました。藤枝から来た若造のたわいもない話に耳を傾けてくれる。話があまり上手でなく、その上ぼそぼそとしゃべる私の話を真剣に聞いてくれる。当然教わる事も多く、めだかの学校で生まれた商品もありました。

大変失礼ながら、年の差を感じないくらい親しくさせていただきました。みなさんが何よりもユーモアとパワー満載だったからだと思います。

西部地方の記事を見つけて読むとほとんどめだかの学校の生徒でした。自分の記事ではないのですが鼻が高かった「俺この人よく知ってる！」と自慢でした。そして次回のめだかの学校でお会いするのが楽しみになるのです。

森町に移って2回目のめだかの学校、お伊勢さんは20年に一度の式年遷宮・出雲大社は60年に一度の大遷宮にあやかり、今年最後にふさわしい三つ授業、なお、ここ遠州一之宮の地で、めだかの学校はやっぱり大したもんだ！

平成26年に向けて今年の締めくくりを、みなさんと一緒に勉学できることを今から楽しみにしております。

めだかの学校伝言板

――第82回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校　長／横山浩史
教　頭／大島たまよ
用務員／山下安範
給食係／鈴木祐之・大久保陽・伊藤英雄・大谷洋介
田村進治・伊藤英雄・石野省三・加藤ひとみ
西川裕子・牧野久子・尾上美智子・大谷香代子
渡辺三ツ子(チーフ)
※お手伝いできる人はぜひ4時ごろまでに！

＜学舎＞静岡県周智郡森町一宮「一宮総合センター」
TEL：0538-89-7730(開校日のみ)

開校日／平成25年12月6日（金）6：20PMより――
受　付／鈴木智加志・芦川和美・大場敬子・斉藤昭（後見人）
21期通年テーマ：『界を超えて、ふるさとに学ぶ』
今回のテーマ：≪あなたの“こころにあるふるさと”とは≫
＜時間割＞
●1時間目　社会　伊藤静男　先生
「“てほへ”と東栄お祭り街道」
●2時間目　国語　水野忠義　先生
「粋な言い回しで語る“報徳の精神”」
●3時間目　地理　杉谷知也　先生
「雲林寺より、海を越えて」
●給食の時間　～旬のお芋さん料理～
10：00閉校

めだかたち

■ななつ星

ななつ星当選の知らせを受けたのは昨年11月、ジュビロ磐田が土砂降りの雨の中、負けた試合を見て帰ってきた時だ。1本の電話が鳴った。電話の向こうから「JR九州でクルーズトレインななつ星を担当している秋山と申します。溝口様がななつ星に当選しました。」と弾んだ声が聞こえ、雨の敗戦後の冷えきった体が、一気に熱くなり興奮で震えた。

あれから1年、ただひたすら無事に七つ星に乗れることを願っていた。

待ちに待った10月15日が来た。前泊のホテルを出て、博多駅前に待ち構えてくれていたスタッフがスーツケース他荷物を持ってくれて3階にあるななつ星専用のラウンジに誘導してくれチェックイン、飲み物に幻の焼酎 「森伊蔵」のジュレがかかった未体験の味覚のスイーツが出された。そしてシャンパンで乾杯！旅立ちのセレモニー後、レッドカーペットが敷かれた通路をホームに降りていった。そこにはななつ星の出発を一目見ようと多くの人・ひと、マスコミのカメラ群があった。出発式では知事らゲストのスピーチ後、JR九州の唐池社長の"新たな人生にめぐり逢う、旅"をお楽しみください」の言葉があり、古代漆色のピカピカに輝く車両が入ってきた。行く先々の駅での歓迎セレモニー、沿線では手を振る人の姿が途絶えることはなかった。

感想を聞かれこう答えた。＊＊＊人生最高の時を過ごさせていただいた。これが素直な感想だ。 水戸岡さんがななつ星をデザインプロデュースした結果、九州はじめ日本中から 選りすぐりの匠達の技が列車という限られた空間の中に凝縮されている。それは豪華というより、粋、高品質、高品格なのだ。その贅沢な空間にクルーの決め細やかな心配りがあった。 この旅のスタートは結婚24周年記念日で、妻に対するホストである私をサポートする心憎いまでのサービスがあった。 ベッドの上のハートマークのバスタオルワーク、ディナーの時にメッセージの入った花篭が出されると同時にリクエスト曲のピアノ演奏、 妻の涙は止まらなかった。最後にクルーが「如何でしたか？」との問いに「100点 を遥かに超えて700点、ななつ星だからね。」 彼らのひたむきなおもてなしを思い出すと目頭が熱くなるのだ。

■遠州横須賀街道・ちっちゃな文化展、大盛況

10月25日(金)～27(日)、掛川市横須賀地区、「遠州横須賀街道・ちっちゃな文化展」が開催されました。当初は台風27号が直撃か？心配しましたが、土曜日午後からは天気が回復、大勢のお客様で賑わいました。70余ヶ所の会場に100名以上の作家さん、鈴木眞弓メダカ、耳塚信博メダカ、大橋町代メダカ、お客様にもメダカ生がうようよ、皆様方のご協力で無事にお開きとなりました。本当にありがとうございました。

（鈴木武史メダカ）

※鳥山剛メダカから「メダカだより」の原稿を送っていただきましたが、発行前に文化展は終わっていますが、追加の形で掲載させてもらいました。

バラさんへ、ご無沙汰しています。25日～27日ちっちゃな文化展です。我が家の参加は今年が最後です。井出さんの奥様も83才。毎年お見えになっていた平山豊さん（めだかの学校初代校長・言いだしっぺ＝故人）の奥様も体調不良でお見えになりません。井出さんが亡くなってから18年、平山豊さんは7回忌を終えたのでよい機会と考えました。14年間毎年井出さん宅に絵を取りに行き、仏壇に手を合わせ終わると返しに行ってきました。井出さんの絵が観れるのは今年が最後です。

文化展の時、我が家に渋川大好き大使の使命をはたすため、渋川しいたけ狩り、てんてんゴー渋川、竜ヶ岩洞のパンフレットが置いてあります。第25回いなさ人形劇まつりのパンフはもちろんです。バラさんが始めた人形劇まつりももう25年ですね。竜ヶ岩洞は30年（略）。ちっちゃな文化展もこれを機会に世に出る芸術家が育つとよいのですが・・・（第1回からのメダカ生、渋川大好き大使）

（注）井出さんは井出孝といい清水市在住で、SBSラジオ「井出孝の土曜日はごきげん」の名パーソナリティーでした。海外取材の際は、スケッチ水彩画をたくさん描かれました。

■遠州まちづくり＆アート・プロジェクト「遠州WebTV」放送はじめる

今では、個人でもいろんなメディアを作れる時代なんですね。インターネットのテレビ放送もその一つ。「遠州WebTV」というユーストリーム放送を今年の四月から有志ではじめました。毎月第二土曜日夜七時から八時半まで、ワークピア磐田に仮設スタジオを設けて、そこから公開生放送しています。

私たちは、「アート」と「まちづくりが出会う」をコンセプトに、文化によるまちづくりを目指しています。放送するのが目的ではなく、放送に出演するためにスタジオに集まった人たち同士が、私たちスタッフも含め、そこで出会い、交流することによって、刺激しあい、新しい何かが起こり、始まることを期待しています。

遠州のいろんなところで、いろんなカタチで、いろんな人がクリエイティブな活動をし、まちづくりに取り組んでおられます。そのような人たちにスタジオに来ていただいて、トークしていただき、またライブや作品を披露していただいています。遠州地方にはこんな人たちがいるんだ、という発見と、目近にそのような人と会える喜びがあります。出演者のみなさんには、活動されていることについてのストレートなメッセージをお願いしています。放送の主体は「遠州まちづくり＆アートプロジェクト」と名付けました。バラメダカはじめ、たくさんのめだか生に協力していただいています。これからも、ご支援をお願いします。

この生放送、およびこれまでの録画は、インターネットで「遠州WebTV」と検索していただくか、磐田市観光協会のHPトップページから見られます。（村田徳治メダカ）

■遠州森町『秋の蔵展』のテーマは『献上柿百回記念』

遠州森町の中心商店街周辺を会場に、11月23日（土）24日(日)の二日間『町並みと蔵展』が開かれます。今回は宮内庁に献上する『献上柿百回記念』がテーマ。23日（土）午後一時から西光院で森町文化財課の北島恵介さんの『「献上次郎柿」の歴史について』の講演もあります。森町には「次郎柿」の原木も大切に保存育成されています。11月11日（月）には議長の榊原

淑友メダカから関係者が宮内庁に献上に行ってきました。蔵展の問い合せは０５３８・８９・７８１０榊原淑友メダカへ。

■「めだかの学校だより」冊子に

「めだか学校だより」の冊子を来年３月までに発行します。編集委員は石野省三、牧野久子、上嶋裕志、松本芳廣、鈴木武史、榊原淑友、村田徳治、山下安範、大島たまよ、水島加寿代、田村進治、榊原幸雄、委員長は石野省三メダカ。

内容は、めだかの便り一号から八十二号まで。特別授業、特集号、写真など掲載する予定です。授業風景やスナップ写真など資料提供いただければ嬉しいです。事務局まで。

大会ひと言とお知らせ

●森町の田邊哲メダカ。磐田市のワークピアで毎月第二月曜日にやっている『遠州ＷｅｂＴＶ』で「女房です」と紹介されびっくり。10月1日入籍し再婚したとのこと。おめでとう！。53歳のスタイルのいい女性です。地元の人曰く「三倉に一週間に一度くらいしか帰ってこないので困ったもんだ」だって。

●津市の杉谷知也メダカ。映画上映会を通して地域で頑張っている。11月9日（土）に民族文化映像研究所の「越後奥三面　―山に生かされた日々―」の上映会をしたんだって。

●袋井市の松本芳廣メダカ。10月5日に菊川市の「シエアショップそらまめ」で、1日だけそば屋「かげろう庵」開店。採れたて・挽きたて・打ちたて・茹でたての手打ちそば、手づくりのつゆ、だって。行けなくて残念。

●浜松市の内山ゆきゑメダカ。浜松市の賑わいづくりに大車輪。その実行力やさすが。10月19日・20日には、浜北文化センターで「笑いヨガフェスタin浜松」、「第三回浜松お笑いフェスタ出世城」の実行委員として頑張る。

●紀州木の国竜神の眞砂典明メダカ。昭和55年の夫婦猿から三十四年間作り続けて来た干支づくり。加齢と共に体調芳しからず、木（気）力だけでは如何ともし難く、平成26年の干支（馬）の制作は心ならずも断念　と。実直そのものの眞砂メダカの干支。飾れなくなるのは寂しいが、お身体には「自愛を！。

●静岡市の高橋俊光メダカ。11月24日磐田市で開催される『ジュビロマラソン』にエントリー。ハワイのホノルルマラソンや東京シテイマラソンなどにも積極的参加。たいしたものですよ。磐田市の川島安一メダカも凄いよ。

●「私も負けないわよ」と、浜松市の加藤ひとみメダカも『ジュビロマラソン』にエントリー。体力には自信あるんだって。9月にはボランティアで東日本の被災地に出かける。「ジュビロマラソン」には磐田市の村田徳治メダカ、山下安範メダカ、榊原幸雄メダカも実行委員として参加します。

●飯田市の長谷部三弘メダカから「ひさかた風土舎通信」保存版第4集を刊行したと送ってくれました。毎月発行の手書きの風土舎通信。飯田市のひさかた地域鄙の地の小さな出来事や地域活動の様子を載せたミニコミ紙です。『過疎化・少子・高齢化の波に押されながら、懸命に生きいきと生きようとする地域の人々の暮らしの姿を、情報として提供すると共に、記録に残すように心がけてきました』と長谷部メダカが言うように、小さな村の住人の皆さんの、地域への思いがひしひしと伝わってくる情報紙です。発行者の情熱には、ただただ脱帽のみです。ありがとう、感謝。

●こちらも又、過疎化・小子高齢化の大波に押しつぶされそうにありながら懸命に想いを行動で発信しつづけている長野県天龍村の関京子メダカ。10月30日飯田市で開催された三遠南信サミットの「道」「技」「風土」「山・住」の四つの分科会の「風土」の分科会で「ゆべしの販売を通じて他地域との交流が広がったことや、自分たちが地域のことを知らなければ魅力を発信できない」と語った、と。三遠南信の交流発展に心血を注いできた浜松市細江町の故松田不秋メダカ。今、後継者として浜松市の水島加寿代メダカが携わっている。その関福盛・京子夫妻を仲間として応援するめだかの学校生。…と言いつつ、お身体にはご自愛をね。

●こちらは芸術でまちを盛り上げる、浜松市の鈴木真弓メダカ。10月29日～11月4日まで浜松市早馬町、クリエイト浜松で開催された「第一回静岡モダンアート展」の実行委員として自らも作品を出展。作品作りから孫の世話まで、多忙だが人生は充実、だって。

●昔から日本中で歌い継がれてきた懐かしい日本の歌を広め、後世に伝えていきたい、と歌いつづけるソプラノ・童謡歌手を応援する浜松市の野嶋一男メダカ。10月12日にホテルコンコルド浜松で開催された「土屋朱帆ふれあいコンサート」には多くの人がきてくれた、と。土屋朱帆さん、野嶋メダカと一緒に「めだかの学校」にも一度登校しています。「めだかの学校」の校歌を歌ってくれました。

●磐田市の斉藤昭メダカ。磐田市生涯大学「いきいき学園」の運営委員長だって。ひょんなことから磐田市市民活動推進課から、「同学園」の講演会の講師を頼まれた榊原幸雄メダカ。人形劇のことや、めだかの学校の話をしよう、と市の担当者と話していたら、名簿に運営委員長斉藤昭の文字。びっくりしたなァ、モウ。でも楽しもうね、斉藤さん!!。

《新入生紹介》

●浜松市の青木宣子メダカ。以前浜松市の照井泰子元メダカと一緒に仕事しながら、三遠南信情報誌アミや「めだかの学校だより」をつくってくれていた。今はヨガのインストラクターをやっている、と。かまちよしろうメダカのまたイトコだって。

●森町の天野智加志メダカ。小国神社古式舞楽の保存伝承や茶道表千家、煎茶道静風流、仏教の実践探求などをたしなむ。学舎が地元に移ったこともあり再入学。

●桑子文雄メダカ。島田市のお寺の住職さん。話を聞くことが好き、と言いつつ、知識が豊富で話はじめれば止まらないとか、地元のまちづくりにも関わる。岩本伴江メダカに引っ張られて参加、と笑う。

●森町の小平史伸メダカ。一宮の「米穀屋」さん。森町出身で発明王とされた鈴木藤三郎さん発案製造の氷砂糖を今も製造販売している。

●浜松市の中村やす代メダカ。第81回めだかの学校の新聞記事をみて、興味をもって、事務局へ問合せ。おもしろ人たちの中に入って知らない世界やまだ見ぬ自分に出合いたい、と。趣味は旅行・体力づくり・相撲観戦。

●日比野雅彦メダカ。中日新聞東海本社の報道部長。名古屋本社から異動して間もない、と。地域を知るには「めだかの学校」へ入学するのがぴったり（？）とか。メディアからみた政治の世界の裏側を聞きたいね。　ＸＸ　ＸＸ

今回は紙面の都合でこれまで。次回はあなたかも、お便りを下さい。

トピックス

■寛ぎの味『そば打ち爺の夢だより』そばＤａ迷人本出版

岐阜県加茂郡坂祝町深萱の「そばの里深萱ふーど」の長谷川政夫メダカ。そばの真髄を追及する一念を毎月はがき通信として『深萱』のお客様や友人、知人あてに発行。一〇〇号になったことを機に一冊の本にまとめ『そば打ち爺の夢だより』を発行。書のはじめに、「あのさ～、今年の年越しそば、ラーメンにしてくれん。そばなら、いらんわ」。どれくらい前になるかなァ～。

岐阜県の、とある町の高校生が母親に対し、ついつい発してしまい、その後いつまでも、いつまでも、忘れられなかった言葉です。時は流れ、あの時、十七歳だった青年が還暦を迎えました。な・な・なんと、何と。その青年はそばＤａ迷人（ペンネーム）で「ソバダメイト」と読みます）を名乗り、今や、岐阜県坂祝町深萱の畑の真ん中で「そばの里深萱ふーど」という、およそそれらしくない屋号の手打ちそば屋を営む、そば屋のオヤジになっているのです。

（以下略）

謹呈していただいた本を読みました。奥さんのチャーボーさんとのキャッチボールが手にとるように見えてきます。十月二十一日には東京日本橋の「なみへい」で、長谷川政夫さんの出版を祝う会が鍵山秀三郎さんや菅原歓一メダカらが発起人となって開かれました。本は十月三十一日から発行、発売されました。

定価は１６００円プラス税（税込１６８０円）郵送の場合は、郵送料込みで２０００円です。申込み、問い合わせは０５７４・２３・０２９１へ。

■事務局だより

遠州地方の「まつり」は、11月の『森のまつり』をもって終わりました。暑い暑いといっていた季節の移ろいも早いもので、もう晩秋へと足音を早めているようです。私の住む磐田市北部の家田は治郎柿の産地です。朝はカラスの鳴き声とバーンというカラス脅しの音で始まります。周辺は柿色で染まっていますよ。今年も渋柿を分けていただいて干し柿をつくるつもりです。美味しいですよ。

さて、第21期の通年テーマは「界を越えてふるさとに学ぶ」です。

第21期最初の「第81回めだかの学校」は、平成25年9月6日（金）、学舎も森町の一宮総合センターをお借りしての初めての学校です。校長は木村智子、教頭は伊藤英雄、用務員は富田久美子。女性用務員は開校以来2回目です。第81回のテーマは《先ず学舎のある森町から》、期初特別授業として、森町教育委員会文化財課係長北島恵介さんに、社会科「中東遠の歴史的価値について」と題して1時間講義して頂きました。会場は机と椅子、まさに講義室のような雰囲気でした。北島先生は、平安時代から江戸時代までの、手書きの地図を使って神社仏閣の位置やその地域に住む人々の暮らしや、明応の大地震によって湿地池が海につながり、原野谷川、太田川、天竜川の繰り返される氾濫や堆積物、灌漑にかけた地域の人々の血のにじむような努力によって今のような地形がある、など熱っぽく話されました。「このような話、もっと多くの人に聞かせたいね」とあちらこちらで聞かれました。

そして校長訓話。実家は花屋で、小学生の頃から店に出て、大学では園芸課を専攻し、夫の転勤でシンガポールで植物園ガイドの国家資格を取り、帰国後は園芸コーディネーターとして仕事している、と。

事務局からは全国まちづくり交流会と新しい学舎での心得などを話す。そしてお待ち兼ねの給食は、机を2つずつまとめて、6～7人掛けで座る。いつものように給食当番の紹介など、美味しいマツタケご飯をいただいた。給食調理も初めてのところ、いくつかのハプニングもありましたが…先ずはクリアでした。給食もたけなわ、ひじようにも私語飲食全て禁止の「次期3役発表」。校長横山浩史、教頭大島たまよ、用務員山下安範。共に個性豊かな人たち。楽しみです。給食係は決まった人になりつつあるので、年1回でもいい、新しい人にもなって欲しいですね。最後は机を真ん中に寄せて、大きな輪をつくり「今日の日はさようならを歌いつつ…」お別れとなる。馴れないこと、机、椅子ももと通りにしないで帰る人がいるので以後は改めたい。

「第82回めだかの学校」は12月6日、その職員会議を10月8日（火）、学舎の一宮総合センターで開く。夕食は近くの「宮の市」から取り寄せたお弁当。校長、用務員、その他の職員15名は定刻に集まっているが教頭がいない。道路工事で別道に誘導されて方角が分からなくなって…村松達雄メダカがお迎えに。3役がそろったところで第82回の授業内容を話し合う。初めて出て司会進行をまかされた横山校長。右往左往しながらもなんとか授業内容が決まる。一時間目社会『てほへ』と東栄お祭りロード』伊藤静雄先生。二時間目国語『ダジャレで報徳の精神』水野忠義先生。三時間目地理『雲林院より、海を越えて』杉谷友也先生。愛知県東栄町と掛川市と津市。そして今回のテーマは《あなたの「こころにあるふるさと」とは》に決める。「めだかの便り」の編集委員も決める。（めだかの便りの授業題名少しかえました。）

■相変わらずの発行遅れ、ごめん。

困ったもので、どうしても1日発行への意欲が湧いて来ない。夜は目がショボつき書けない。原稿依頼や生原稿のパソコン打ちなどご迷惑をおかけの溝口久、鈴木武史、村田徳治、伊藤英雄、田村進治、本島慎一郎メダカら、それらをまとめてくれる間渕亮太メダカありがとう。発送などお手伝いの榊原明美さん感謝。

■第21期は、25年9月1日から26年8月31日までです。

継続手続きがなされていない生徒は、今回は申込書を同封しますが、次回からは名簿からはずれ自主退学となりますのでご注意下さい。入学を希望される方がいましたら事務局まで連絡下さい。資料と申込書を送ります。

■めだかの学校だよりの原稿を！

次回の発行は2月1日予定。締切りは1月20日です。

郵便かＦＡＸで。メールの方は、《mabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp》間渕亮太０９０・５００９・０９８６です。

（メールの方は割付の関係もあるのでご一報を。）

■めだかの学校の事務局

〒４３８・０１０５静岡県磐田市家田５２９番地２０　榊原幸雄方　ＴＥＬ　０５３９・６２・６６９１（ＦＡＸ同じ）
※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一宮３１５０。電話　０５３８・８９・７７３０　開校日の午後４時以降のみ使用可。
携帯　０８０・１６１２・９１３０